



高等部「9年生を送る会」

15日に行われた高等部の「9年生を送る会」です。すでに9年生は、この1年間、いろいろな場面で「本気になってやる」との格好よさを示してくれました。9年生の思いを引き継いで、5年生から8年生も本気になって「9年生を送る会」に取り組みました。

7・8年生の合唱

7・8年生は『サクラ咲ケ』の合唱と9年生への応援を披露してくれました。秋桜祭の9年生の『大地の歌』が、7・8年生を育てました。『大地の歌』が大きな刺激となって、『サクラ咲ケ』の歌声が大きな体育館をゆるがしました。「9年生の創ってくれた児童生徒会を、私たちがしっかり引き継ぎます」という強い決意が感じられる、迫力ある歌声でした。



児童生徒会の寸劇

児童生徒会企画では、児童生徒会テーマが決まらず悩んでいる様子を、寸劇で表現してくれました。

シナリオは、副会長の棚橋杏太郎さん(8-1)作だそうです。中学生とは思えない構想力。プラス演じる8年生の演技力が抜群。語りがすごい。動きがすごい。間合いが絶妙。会場全体に笑いの嵐を生み出しながら、9年生への感謝のメッセージがしっかり伝わってくる本当に素晴らしい寸劇でした。



5・6年生の呼びかけ

5・6年生は、児童生徒会でお世話になったことを、9年生一人一人を紹介しながら呼びかけにまとめてくれました。一人一人の名前が大きな声でコールされ、感謝の言葉が添えられました。信濃小中学校の5・6年生は、児童生徒会の活動を通して、9年生の大きさを感じ続けてきたのです。



9年生の思いを凝縮した合唱

『大地の歌』を目標に歌い上げた7・8年生の『サクラ咲ケ』。その『サクラ咲ケ』が、また9年生に火を点けました。初等部の前で歌った『桜ノ雨』もすごかったけど、この日の『桜ノ雨』はさらにグレードアップされていました。

『桜ノ雨』を歌う9年生の目には涙。『桜ノ雨』に圧倒される在校生の目にも涙。そして、見守る先生方の目も、涙で光っていました。



信濃小中学校だより そよげわか竹

12 9年生ありがとう そしてさようなら

9年生からお礼の合唱披露

初等部の弟や妹からプレゼントされた金メダルを胸に、「忘れないで…」と『桜ノ雨』を力強く堂々と歌い上げる9年生は、やっぱり「かっこいい」、初等部の子どもたちにとっての憧れの9年生でした。



ジャンケン列車で交流

2年生が考えた交流ゲームは「ジャンケン列車」。6月の全校交流会にやったときのことが、楽しい思い出として残っていたのでしょう。第2体育館いっぱい広がって、9年生と楽しく遊ぶことができました。

9年生の表情も実に楽しげです。中学3年生でも、こんなに楽しそうに小学生と関わる事ができることに驚きました。否、「中学3年生」ではなく、「9年生」だから、こういう姿が生まれるのでしょう。



アーチをくぐって退場

最後に、初等部全員で作った長い長いアーチをくぐって9年生の退場です。大きな体を小さく畳んでアーチの中を進んでいく9年生。部活動で鍛えた9年生でも、けっこうきつかったようです。アーチを抜けて大きく伸びをする9年生の笑顔、とても素敵でした。アーチの中で、初等部の小さな仲間たちに声をかけられながら、頼られる存在であったこと、慕われる存在であったこと、憧れの存在であったことを実感できたのではないのでしょうか。

初等部「9年生との交流会」

今年度、初等部では、「1年生を迎える会」を4年生が計画・運営。2月に行われた「4年生ありがとうの会」は3年生が担当。そして、この「9年生との交流会」は2年生が中心となって進めました。「場が人を育てる」の言葉通り、前に立って進行する2年生の張りのある声には、「たくさん遊んでもらった9年生に喜んでもらえる会にしよう」という思いが満ち溢れていました。



2年生と手をつないで入場

入学式では、9年生が1年生の手を引いて入場しました。この日は、2年生が9年生の手を引いて入場です。2年生の真剣な表情、そして9年生の照れくさそうな表情が対照的でした。

金メダルをプレゼント

初等部では、お世話になった9年生に手作りの金メダルをプレゼントしました。4年生が円を切り、3年生が金色の色紙を貼り、2年生がハートの折り紙を作り、できあがった金メダルを1年生が9年生の首にかけます。

厚紙で作ったものではあるけれど、「信濃小中学校の頼もしい9年生であった」ことの重みを感じさせる金メダルです。

